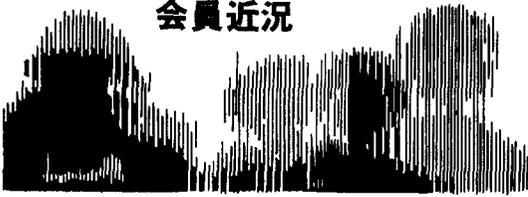


会員近況



出光興産
業務部計画課 御船 泰

細心大胆 プロジェクトチームとしてスタートして以来所属してきた総合計画室から、8年ぶりにラインの中のスタッフにもどりました。内外の環境条件が変わる期間に、新しい仕事のパターンをつくる経験をしたのは幸せでした。

最近、とくに気になることは、コンピュータの利用マインドです。コンピュータの導入・定着が、単調な？高度成長期に当たったためか“量的には細心、質的には大胆に偏りすぎている”。コンピュータでもORでもよいのですが、いまからが導入期だとしたら、かつてダーティORに励んだ先輩はどうするだろうか？モデルの構築は、“もっと、質的には幅広く（細心に）、量的には大胆にやるべきではないか？”10年先の数字を毎年見直すのが常識のようだが、その意義如何？先の見通しが立てられない時にこそ計画スタッフの存在意義ありです。企業としてはベストエスティメーションと心中する訳にはいきません。型にとらわれることなく、素直に流れ（事実関係も、意思決定も）をとらえたいものです。委細面談。

近畿大学
工学部経営工学科 桑原兵二郎

泥臭いORを目ざして 昨年の秋季大会の特別テーマは「実践的OR」であった。もともとORは「実戦」から誕生し「実践」の中で成長発展してきたはずであるが、実状は必ずしもそうではないだけにこの特別テーマは意味深長である。というのは、ともすれば理論面に比重がかかるあまり難解な数式の羅列がORであるという印象を世間を与えたことへの反省と、OR本来の使命である「実践」とを強調しているからである。換言すれば、この「理論」と「実践」とは唇齒輪車の関係にあることが望ましい。

ところで、実践的といえるかどうか自信はないが、昨

年から都市の分析を手がけている。大プロジェクトチームではなくて中小企業的な一研究室ではあるが、構想だけは大きくて、微視的観点に立ち都市の静態的・動態的分析を目的としている。当初は、調査対象地域の選定、モデルの構築、調査方法、データの構成（コード化）、データ整理の方法などのすべての面において試行錯誤を繰り返したが、一応予備的段階のモデルに関して体勢が整ったところである。現時点ではORの研究というにはおこがましいが、泥臭いORを目ざして今後とも研鑽を重ねたいと思っております。

陸上自衛隊 平松 寿昭

ORの資質 大阪大学工学部、西田研究室でORの研究をはじめさせていただいてから3年になろうとしております。待ち行列を土台にしてシステムの効率性ということを中心にして研究を行なってまいりました。自衛隊でのOR職務に、まだ携った経験をもっておりませんが、最近、ORの有用性、必要性について疑問が投げかけられるのを耳にすることがあります。

ORが組織の目的に資することを目的とするならば、グローバルに見、総合的に判断をして決定するdecision makerのstaffとして、ORに携わる者も、各種事象を総合的に判断、論理的に分析する能力が必要でありましょう。分析結果がdecision makerの決定に資することを目標としていること、また困難な要求に対しても必ずやりとげる責任感と実行力といった資質もORに携わる者にとって必要であると思えます。

神戸商科大学管理科学科
秋葉ゼミ4回生 山口 憲二

学びたいことは山ほど 卒論「フロッジョップ・スケジューリングにおける分枝限定法と発見的解法」もどうやら目処がつき、ホッとしているところです。わがゼミの仲間たちは、それぞれ「タオル産業における企業の最適規模」、「立地問題」、「車両配送計画」、「時系列予測手法の比較評価（Box-Jenkinsモデルを中心に）」をあつかっています。

毎年就職試験の終わる11月になると、本学の計算機室は卒論をかかえた4回生（5回生以上も含む）で超満員となります。それに比べ、先日（12月23日金曜日）の学会関西支部研究講演会は、大変有益なお話であったにもか

かわらず、わずか十数名の参加で、残念に思いました。企業の会員も参加できるよう、講演会は土曜日に開催していただけないでしょうか。

4月から社会人となりますが、OR、コンピュータ、会計等学びたいことは山のようにあります。今後ともご指導をお願いいたします。

法政大学工学部
経営工学科 山本 正明

OR学会のOR 学会の会計理事をお引受けしてからまもなく2年となる。この3月によくパトタッチができるので、正直に言ってやれやれというところである。

この間学会運営の中心にいたことになるのだが、“OR学会のOR”はあまりうまくいっていない。無きに等しいといってよかろう。OR的な問題は長期的な方針から日常的なオペレーショナルなものまで、いくつも転がっているのだが、私の担当である会費収入の問題について一つ。

毎年総会で会員増強が提案され、実際にも200人を越す入会者があるのだが、毎年百数十人の会費滞納者が発生しており、その人たちはやがて除名の運命となる。その他退会者も加えると、この2、3年会員数については、賽の河原の石積をやっているようなもの、有効な手だてが見つからない。会員のみなさんのお知恵を借りたいものです。

パローズ(株)
システム部 中村 富夫

小売業における出店立地の分析に、現在取り組んでおります。消費者行動モデルが数多く提案されており、分析手法も高度になってきております。それにつれて調査データの収集も複雑になってゆくようです。

私たちは、顧客吸引力要因として、店舗面積と距離により、モデルを用いたシミュレーションにより、充分とはいえないまでも、一応の結果を得ております。

大規模小売店舗法により、地元商店街の反対等で、ますます出店が困難になっているようです。それゆえ、出店後の影響度を測定する客観的指標づくりが今後必要になってくるように思われます。

今後は、運用システムを確立すべく、取り組んでゆく予定です。

(財)電気通信科学財団 白根 禮吉

守りの仕事に変わって 電電公社が電気通信の科学技術を一般にわかりやすく普及するため、3年ほど前に電気通信科学館を設立し、またそれを運営する電気通信科学財団を発足させたが、その責任者に任命され現在にいたっている。

それまで、データ通信など主として開発型の仕事に従事していたのが一転して、社会教育施設の運営という守備型の仕事に変わり、戸惑いがあったが、この分野では日本はおおよそ先進レベルから遠いことを知って、逆に大いにやる気を起こしている。

ORをはじめ、管理技術を学んだ眼から見ると、なにかプロジェクトを進める場合に、その目的を明らかにし、わかりやすいコンセプトを設定すること、それからでき上がったシステムの維持運営体制を確立することはどうも苦手で、つまり頭と手足の部分が抜けて、胴体をつくることだけに熱心という日本型の伝統的欠点が気になる昨今である。ただし、これは他への批評ではなく、日常の自戒にしている事柄である。

大成建設
電子計算センター計算室 鈴木 孝幸

当分ORは趣味 昨年の春入社して以来早くも1年がすぎようとしています。現在の仕事は、電算機システムの維持管理を中心に開発プロジェクトチームの一員としてプログラムの開発等です。電算機システムの維持管理は、ユーザーが計算機をより効率的に使用できるように、システム資源を管理することであり、電算機とユーザーとの橋渡しの役割を果たしています。ここにいると、社内の電算利用状況がわかり、さらに会社組織の横のつながりがわかっておもしろい。

当社のORは、数年前まではかなり研究されていたようですが、現在では目だった動きはないようです。現場では、わけのわからないORよりも、いままで蓄積された自分の経験のほうが頼りになるということでしょうか。こう考えてみると、ORを広めてゆくためには、OR屋の経験を他の人々に移植する必要があるのではないかと思ったりしています。

私のORも、当分の間は趣味ということになりそうです。